

第29回学習会を、平成23年5月6日(金)19:00～20:00福岡市教育センターにて行いましたので報告いたします。

## 第29回目の内容

講師 重枝一郎先生(福岡市教育センター主任指導主事)

- 1 人間関係向上プログラムの効果的な利用
- 2 体験活動①「Xへの手紙(愛のメッセージ)」
- 3 ビデオ鑑賞
- 4 体験活動②「ワードトーク・ボディートーク」
- 5 実践交流 高嶋先生(平尾中学校)GWT「まちがいさがし」の実践



## 人間関係向上プログラムの効果的な利用

### 1. ルール確立のためのスタート期

#### (1) 教師と生徒のリレーションづくり

- ①自己開示の効果→ 厳しさ, やさしさ, ユーモア
- ②やってみせる → かかわろうとする文化をつくる
- ③3つのロールモデルを日常的に示す→ あいさつ上手, うなずき上手, お礼上手



#### (2) 係活動のパターン化

- ①テキパキと活動する最初の空気づくり→ ほめて強化, 適切に注意
- ②みんながしているから自分もしてみよう→ させたい方向をさり気なく示す

### 2. 人間関係向上プログラム

- (1) 相手意識 (いいところ, ありがとう, 応援)
- (2) ルール意識 (グループ体験)
- (3) 見る意識 (ルール違反, ルール遵守)
- (4) 共有意識 (トラブルもよいことも全体に返す)
- (5) 間の意識 (知的は待つ, 情的はすぐ)

### 3. 人間関係向上プログラムの効果的な利用

#### (1) 道徳・特別活動

- ・月目標 ・日常の授業 ・生徒指導の機能として生きているか

## (2) 行事

- ・わかりやすい目標
- ・即効性ある

## (3) 教科

- ・共感的人間関係づくりに重点
- ・授業過程
- ・手だて



※事後計画表 (?)

①	1 年			2 年
	特活	道徳	エンカウンター	

## ② 資料 (千代中)

SGE (構成的グループエンカウンター: 表中は E で表す)

SST (ソーシャルスキルトレーニング: 表中は S で表す)

GWT (グループワークトレーニング: 表中は G で表す)

千代中実践プラン 重枝学年《1年》

学年目標: 『ききとる・つながる・やりとげる』

生活目標: 『気づき・考え・行動する』

重点目標: あいさつ, 言葉遣い 時間を守る 掃除の徹底



月	生徒の様子	その月の主な実践 行事	ねらい	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年開き</li> <li>・相互依存または孤立</li> <li>・期待感</li> <li>・集団の意識薄い</li> <li>・個人が目立つ</li> </ul>	『班長会で班のメンバーを決めよう』	リーダーに自覚をもたせ, 明るい中にも落ち着いた雰囲気での学習ができる班構成を考える。また, 一人ひとりの存在を認める話し合いをする。	E
		『個人の目標を立てよう (応援メッセージ)』	友だちの目標を読み, それを応援することで他者理解の雰囲気をつくる。	E
		『千代中タイタニック』	入学したばかりの仲間と良好な人間関係をつくるとともに, 全体的に安心感をつくる。	E
		『ソーシャルスキルについて』	小学校からの心配を題材に, 今までの自分たちを振り返り, ソーシャルスキルの必要性を実感させる。	S
		『サイコロトーク』	テーマに沿って自分の思っていることを素直に表現する。そのときの聞き手の態度が話し手に大きく影響することを意識させる。	E
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの成員がよく知り合う時期</li> <li>・五月病</li> </ul>	『1年後の自分へ』 『1年後の友へ』	自分の気持ちを積極的に出し, また友だちからの気持ちを受けとることで, つながりを実感させる。	E

	『トラストフォール』 『進化じゃんけん』 『指で集まれ』	集団の雰囲気をなごませ、みんなと活動しようという気持ちにさせる。くり返し行う中で成長の評価を入れ、ソーシャルスキルと関連付けていく。その時期に必要な生徒指導にもつなげる。	S
	『心の（言葉の）キャッチボール』	言葉の言い方で受け手がどのように感じるのかわかり、自分の言葉の言い方の目標を立てる。「アサーションスキル」の獲得を目指す。	E
	『もう一度班づくり』	説得力ある言い方や態度を学び、リーダー育成をする。	E
	『あなたがいて私はうれしい』	自己肯定感をもたせ、他者理解の心を育む。教師、生徒のリレーションづくりにもなる。	E
	『鍛錬遠足をよくする人』	クラスを構成し、つくりあげていくひとつの存在として、どのような態度と行動が必要なのかを知る。また、グループワークを通して、それらを自分のスキルとして習得していく。	G
	鍛錬遠足	楽しく参加しながらも、他者を思いやり、援助の手を差し伸べる協力的な人間関係を育成する。一つの成功にはみんなの力が必要だということを体験的に感得させる。	G

## 解説



### ◎ルールとリレーションを同時に育てる

学級経営は、行き当たりばったりで行うのではなく、子どもの実態とのマッチングで行うものです。まずは、集団活動を通して「ルール」と「リレーション（関係性）」の両方を同時に育てます。

そのために、最初は教師のリーダーシップが必要です。教師がモデルを示すのです。子どもは、教師の示すモデルを見ながら、自然に学んでいきます。例えば、机の下にもぐりこんでゴミを拾ったり、タイミングよく程よい大きさの声で挨拶をしたり……。教師は自分から、子どもと1対1でつながります。自分を開いて、かかわっていくのです。かかわろうとする文化をつくるのです。

### ◎教師の人間の魅力（ソフトパワーVSハードパワー）

教師は子どもにとって、権威者です。子どもは教師に「ハードパワー」を感じています。教師としての権力に子どもがただ従っている関係では、望ましい人間関係とは言えません。子どもにとって人間的な魅力を感じさせる教師であること、つまり、子どもが「ソフトパワー（人をひきつけて説得する力）」を感じることで、関係性がより良いものになります。

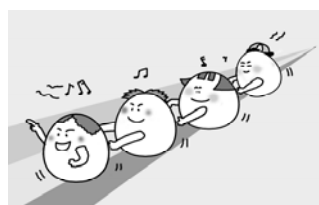
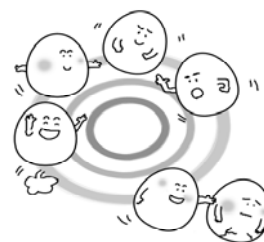
その手段として、「自己開示」があります。自己開示とは、「自分自身に関する情報を伝えること」です。例えば、先生はあなたが隅々までぞうきんがけをしている事を知っているよ。いつもうれしく思っているよ（安心感を与えるプラス評価）、暴言やいじめは絶対に許さない（きびしさ）、昨日、こんなことがあって笑われちゃったよ（ユーモア）。生徒指導のキーワードでもある

「きびしさ、あたたかさ、ユーモア」を併せ持つ教師が、子どもに信頼される教師なのです。

## ◎子どもから見た信頼できる教師像

子どもがどのような教師を信頼するかは、さまざまな調査があります。ある調査による解答の多いものは、下記に示す通りです。

- ・自分の考えを押しつけない（柔軟性がある）
- ・生徒と積極的にコミュニケーションをとる
- ・厳しく叱るときは叱る
- ・生徒と同じ視線に立とうとする（上から見ない）
- ・思いやりがある（生徒の気持ちを考える）
- ・行事などを共に盛り上げてくれる
- ・平等である
- ・誠実である
- ・生徒の話を最後まできちんと聞く
- ・秘密や約束を守る
- ・生徒一人ひとりに目を向け理解しようとする
- ・生徒と適切な距離を保つ
- ・専門的な知識がある
- ・授業がわかりやすい
- ・人として尊敬ができる
- ・安定感がある
- ・ごまかさない
- ・身なりがきちんとしている
- ・良い面をきちんとほめてくれる
- ・ユーモアがある



上記のように、子ども一人ひとりに目を向けコミュニケーションをはかろうとする「関係性」、誠実・公平・ユーモアなどの「人間性」、教科指導者としての「専門性」に、子どもたちは鋭い視線を向けています。

教師としての人間的な魅力とは、「関係性」「人間性」「専門性」の相互作用といえるでしょう。

## ◎3つの上手：「あいさつ上手」「うなずき上手」「お礼上手」

教師は、日常的に子どもにロールモデルを示すことができます。シャワーを浴びせるように、モデルを示すことができると効果的です。

「あいさつ」は、子どもが返したくなるような「表情」「大きさ」「タイミング」で行えば、それでよいと思います。

「うなずき」は、話している人に安心感をもたせることができます。受容されている、共感されているという気持ちになると、話がはずみます！「子どもの話を最後まできちんと聴く」教師は、子どもに信頼されます。上記の調査結果にも、項目として挙げられています。授業中も、うなずきながら子どもの話を聴き、子どもの考えや気持ちを引き出していきます。話を聴き合うことができる、安心感のある教室を創る第一歩は、教師がモデルを示すことなのです。

「ありがとう」は、教室にあふれさせたい言葉です。些細な場面でも教師は「ありがとう」を口に出し、子どもに感謝の気持ちを届けます。そうすると、例えば先生が子どもの消しゴムを拾ってあげるような場面で、自然に子どもが「ありがとうございます」と言える文化が生まれます。「日本人が一番好きな言葉って何か知ってる？そうそう、ありがとうなんだよ。先生も大好きな言葉だよ」何気なく、そんな会話をしてみるのもよいのでは・・・。

重枝先生の給食は、子どもが「しげもり」にしてくれます！（つまり、大盛りです！！）

「しげもり、一丁できました！」「ありがとう」って・・・ほのぼのとした情景が浮かびます。教師と子どもに信頼関係のある教室って、そんな教室なのかもしれません。

## ◎一人一役

係活動や清掃活動を通して、「テキパキと活動する文化」を学級に定着させます。テキパキ活動することがあたりまえの空気感を創り出すのです。

例えば、係活動で後ろの黒板に連絡事項を書くタイミングを指導することや、教室掃除で机を運ぶスピードなどを、こだわって指導します。「机を持っている間は掃除をしていない時間とみなす。机を運ぶときはジョギング運びで（リズムカルにスピード感をもって）。机はソフトに置く」など、学級に「ルール」をつくるのです。（もちろん、教師がして見せます）

班は、「整美班」「学習班」という呼び方ではなく、〇〇（班長の名前）班と名前と呼ぶなど、細かいことにも、担任はこだわります。そうすると、人間関係を意識した仲間班づくりができます。

担任として意識したいことは、学級全体の風土を「やってみよう」という空気にする事です。させたい方向をさりげなく示しながら、さりげなく導くのです。そして、できたことは必ずほめて強化します。担任のキャラクターを逆手にとって（例えば、見た目とは違う言葉かけであったり・・・見た目は怖いけれど、言うことはあたたかい等）ギャップで刺激を与えることも効果的です。

重枝先生は、教室掃除に「テキパキ感」を要求するために、強い刺激を与えています。例えば、ペットボトルに水を入れて、教室に撒いて拭かせる等・・・。重枝流を参考にしながら、自分らしく「させたい方向をさりげなく示す」ことは、教室に空気感を生み出します。その「空気感」が「風土」になるのです。

## ◎チームは発展していく

チーム力は育まれるものです。最初は、寄せ集めの人々が、どうすればチームとして育つのか？そこに「人間関係」つまり、関係性、「かかわり」の効果があるのです。かかわっていれば、人間関係に変化が生まれます。「信頼関係」を築くためには、かかわり方の質が問われます。いったん信頼関係を築くことができれば、それはなかなか崩れません。

人間関係がよければ、結果の質が高まります。まず、思考の質が高まり、行動の質が高まり、結果の質が高まるのです。そのことを子どもたちに、日常的に話します。シャワーを浴びせるようにです。結局、教育は、人間関係が方法でもあり、目的でもあり、結果でもあるのです。掃除一つとっても、学級の人間関係がよければ、結果の質が上がるのです。学力も生活態度も、すべては相関関係にあります。そのことを、教師が日常的に子どもに語り、浸透させます。

チームには、共通の目標があります。そこが、グループとの違いです。グループは、共通した性質によってまとめられた集団のことであり、だから「仲よしグループ」という言葉があります。野球やサッカーは「試合に勝つ」という共通の目標をもった人々が集まる「チーム」です。目標達成に向けて、自分の持ち味や強みを最大限に発揮します。

学級や学校は、共通の目標がある「チーム」だと定義付けて、子どもや先生たちとの人間関係を意識させ、かかわりをもたせ、「思考」「行動」「結果」の質を高めていきます。それが、チーム力が育つということであり、チームの発展ということなのです。

## ◎マスターマインド（思考の振動）

「マスターマインド」とは、ナポレオン・ヒルの成功哲学用語です。「明確な目標を達成するための2人ないしそれ以上の人たちによる、調和された知恵（そして知識）と努力の協力関係（もしくは、そういう関係にある人を指す）」と定義されています。

成功者と呼ばれる人たちは皆、優秀ですが、1人の人間の力には限界があります。自分にはない知識や経験をもつ人から刺激や影響を受け合うことで、計り知れない貴重な価値が生まれます。

子どもたちに、「マスターマインド」について語り、人と人との心がふれあい、波長が合い、調和することの喜びや可能性について教えます。だから、人間関係が大事なんだと説得します。人が幸せに豊かに生きていくためには、人間関係が方法でもあり、目的でもあり、結果でもあるのだと・・・。

私は、こんな話もします。

アメリカの実験で、とても興味深い研究結果があります。  
長生きするタイプに共通することは何か。7000人以上の人を対象に9年間も追跡調査をしたそうです。経済状況、社会的地位、タバコを吸う習慣はあるか、お酒は？など、細かく徹底的に調査した結果、意外な真実にたどりついたのです。

さあ、答えは何だと思いますか？

子どもに考えさせ、意見を言わせませす。



答えは、「友だちの数」です。友だちの数が少ないほど、病気になりやすかったことがわかったそうです。わかちあえる友だちと過ごす時間が、ストレスを減らしてくれたり、元気づけてくれたりと、生きる力になっているのです。

子どもの心に響くフレーズや語りをシャワーのように浴びせること。効果大です。

### ◎相手意識を強くもたせる

風土会で学んだ理論やフレーズ、エクササイズ等は、上手にいいとこどりして、先生方の学校で「実践」してほしいという願いがあります。その中でも、一押しは「ありがとうカード」「応援カード」「いいところさがし」です。これは、年間通して、ことあるごとに実践してほしい内容です。行事の前後だと、タイムリーだと思います。学級や学年だけではなく、異学年交流でもできます。

学級で「いいところさがし」をすると、学級の空気があたたかくなります。それは、友だちからのメッセージを通して、自分が学級から受け入れられていることを実感するからです。「自己盲点」（自分は知らない、まわりが知っている自分のよいところ）に気付かせてもらえるからです。それが、心の基盤となり、学級を自分の居場所として認識できるようになるのです。

担任として、子どもたちに何がよいところだと思われているのかを知ることでも大事なことです。ぜひ、先生に対してもカードを書くように促して下さい。技術吏員の先生や給食の先生などに対しても・・・。子どもには、視野を広げて「感謝」することを教えることができます。

### ◎ルール意識・見る意識・共有意識・間の意識

学級生活や学校生活が安全で楽しいのは、ルールを守っているからということを日常的に教えます。それは、社会性を身に付けることにつながります。

「見える」ではなく「見る」を意識させます。無意識でいると、他者の短所だけを見てしまいます。人の悪いところは、すぐ見えるのです。意識して、他者の「長所」や「よいところ」「よい行い」を見る目をもたせます。「ルールを守った」ところを見たら、ほめて強化です。「見る」意識がないと、ほめることができません。教師にも必要な意識です。

「自分が成長するためには、お互いが教科書。他者の長所から学び、感謝しよう」。教師は語りましょう。

学級で起きたよいことも悪いことも、すべて全体に返していきます。どう思う？共有する場をもちます。

授業で子どもに思考させる場合には、「考える」時間を確保することが大切です。知的な場面では「待つ」必要があるのです。一方、情的な場面では「すぐ」が鉄則です。タイミングを逃さず「すぐ、ほめる」です。

### ◎チームで取り組むために

長い会議は、本業率を下げます。教師にとっての本業とは、子どもとかかわり、共に過ごす時間です。その時間を確保するためにも、教師のストレスを減らすためにも、長い会議に代わるツールが必要です。重枝先生は、月に1回残業して、一ヶ月のプランをたて略案を準備していました。月目標・行事・学活・道徳・総合的な学習の内容についての冊子をつくり、月曜日に学年教師に配布するようにしていました。このような工夫をすることで、チームでビジョンをもち、共通実践ができるようになり、長い会議を短くすることができます。「発想と工夫」です。

## ◎教師同士が仲が良ければ、生徒指導が大変でも大丈夫！

職員室の空気と教室の空気は同じだと言われます。職員室の空気があたたかく活気がある学校では、各学級も落ち着いている。職員室の空気が凍りついている学校では、学級崩壊を起こしている・・・よく言われることです。

職員室で先生同士が日常的に「どうした」「どうだった」と聞き合い、本音を話すことができると、職員室が居心地のよい空間になります。そんな学級であれば、子どもたちも居心地がよいのです。生徒指導面でしんどい学校ほど、そんな雰囲気がほしいものです。1人では、心が折れるのです。教師だって、子どもだって同じです。

## ◎不安のグルーピングを解消する

集団の中で「個」が殺されるつながりが「同調」です。例えば、女子3人の「仲良しグループ」は、誰かの悪口を言い合い、共通の秘密をもつことでつながっていきたりします。このような子どもたちは、いつも一緒にいますが、「協調」関係ではなく「同調」しているだけなので、本音はかくしていたり、陰湿な雰囲気を醸し出していたりします。教師は、そのような空気を敏感に感じ取り、先手で手をうちます。「先生は、陰湿な雰囲気の女子グループが嫌いだ。そういうグループにいる子は、ひとりになることが怖くて、相手に合わせて誰かの悪口を言ったり、秘密をつくったりしている。そして、学級に陰湿なおいをまき散らしている。そんな同調グループを自分の居場所にしないで、お互いの悪い面を注意しあえる関係になれ。学級のいろんな人たちとつきあえるようになれ」

学級の中で、特定の子ども同士で固まってしまうないように、学級や学年の子どもの実態に合わせて、月ごとに計画的な取組をします。（※千代中実践プラン参照）

### エクササイズの体験活動（その1）

## 「Xへの手紙」（愛のメッセージ）

### ☆ねらい

- ・自己開示、他者理解
- ・今、悩んでいる気持ちが自分にとって精神的な糧となっている実感をもたせる
- ・友だちに対する感謝の気持ちを持ち、学級の安心感を醸成する

#### 【心を育てる仕掛け】

- ①エンカウターの手法をつかった実践
- ②悩みを仲間と分かち合うことで複眼的思考ができる
- ③同様ユニット「オープンザなやみ」「身近な人への思い」「個人目標をたてよう」「他者紹介ビンゴ」  
メッセージ書き「1年後の自分へ」「1年後の友へ」「体育祭をよくする人」

### 「Xへの手紙」～愛のメッセージ～

名前（ ）

自分の悩みをわかりやすく書いてください

上記の答えを具体的にわかりやすく書いてください

名前（ ）

名前（ ）

→左記のような用紙に、まず自分の悩みを簡単に書きます。

悩みの答えを4、5人に書いてもらいます。この用紙を順送りして、次々に書いてもらいます。

まず、自分の悩みを打ち明ける＝自己開示の効果があります。スッキリします。悩みに対する回答を読むと、悪い気はしないものです。人にかかわってもらえる事はうれしいと実感します。様々な回答が書かれているので、視野が広がります。これならできそうだと、背中を押してもらえます。信頼関係を築く、ひとつのプロセスになります。

「X への手紙」のようなメッセージ書きは、機会あるごとに実践できます。必ず「相手意識を強くもたせてから」行うことが大切です。そうすると、思考や結果の質が高まります。

6 月にお勧めエクササイズは、「いじめ」を考えさせる内容です。学級集団を育てるうえで、6 月はポイントになる時期です。教育相談週間が入る時期でもある 6 月に、ぜひ、いじめについて考えさせましょう。「心の手紙」というエンカウンターは、生徒が他者を意識しながら正義感をアウトプットするものです。

「今、いじめられているあなたへ」

「今、いじているあなたへ」

手紙を書くつもりで、メッセージ書きをさせます。

そうすると、いじめっ子が「許さない」という内容を書いてきます。

それを、学級で発表させ、学級の中に、いじめを許さないという風土をつくるのです。

全体に返し、共有するのです。

行事とからめた取組は、即効性があります。

また、学校生活の 1 日の大半は授業なので、授業の中に、共に学び合う喜びを取り入れることも、人間関係づくりに大きな効果を生みます。さまざまに関連させ、相互作用をねらいます。

各教科から、「人間関係づくり」の視点を入れた「手だて」を出し合い、学年主任がまとめるなどしながら関連付くと、即効性と効果がねらえます。

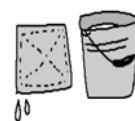
授業の中に、ペアによる話し合い活動を位置付けることでもよいのです。

そして、効果があった実践については、すぐに整理しておくことも大事です。そうすることで、ひとつの形ができます。

また、「学年便り」や「学級通信」で発信することは、実践を整理し、保護者に対して学校の取組をアピールすることになります。この発進力は、教師としての力量のひとつと考えます。

## 実践ビデオ鑑賞

千代中学校の教室風景をビデオで見ました。



### ○「ありえないゴミ箱」

重枝先生が、教室の「ゴミ箱」の中身を床に広げて、生徒にきびしく突きつけています。

「今、見て思ったことを書きなさい」

そこには、学習プリントや使いかけのえんぴつ、給食のゴミ等、入っているべきものではないものがたくさんあります。

生徒たちは、思考します。「物を大切にしていない、自己管理をしていない、学習プリントを捨てることは、自分だけではなく先生に対しても失礼だ・・・など」

それを全体で交流して、学級のルールとしていきます。

ここで大切なことは、教師が一方的に説教していないという点です。生徒たちに考えさせ、生徒たちから引き出しているということです。だから、生徒たちは心から納得し、自分たちで考え、自己決定したルールとして、受け入れていくのです。

「先生 対 生徒」ではなく、生徒が自分の問題としてとらえ、真剣に考える方向にもっていくことが重要です。その上で、教師の語りです。重枝先生は語っています。「先生は、自分の捨てたゴミは覚えています。ゴミにも歴史があるのです・・・」





## エクササイズの体験活動（その2）

### 「ボディートーク・ワードトーク」

#### ☆ねらい

- ・信頼関係を深める
- ・相手の立場にたって考える
- ・不安感が安心感になるように、相手意識を強める

#### 【心を育てる仕掛け】

- ①生き物には感情がある（インストラクション）
- ②トラストフォール（アイスブレイク）
- ③ワードトーク（他者理解をすることの重要性を印象づける）
- ④ボディートーク（具体的にどんなときがうれしかったのか）
- ⑤同様ユニット「タイタニック」「人間知恵の輪」「進化ジャンケンゲーム」「トラスタップ」「自己紹介ゲーム」



2人1組になって、片方が目隠し（アイマスク）をして、もう1人がことばだけで誘導します→ワードトーク  
危険が伴うので、危ない時は触ってください。  
例えば「まっすぐ、まっすぐ、まっすぐ・・・左に行って、右に行って、まっすぐ、まっすぐ・・・」という感じです。

重枝学級で生徒が「ボディートーク」「ワードトーク」をしている実践ビデオを視聴しましたが、事前にかなり念入りに、説明や注意をしています。ルールを守ることも徹底しています。大怪我をするような危険が伴うエクササイズだからです。

イスを階段とみなして練習させたり、先生がしてみせたりしています。「危ない時には、しっかり止めてください」と言って、わざとのおおげさに、相手に親切にする姿も、重枝先生自らが見せています。

「不安だけど、みんなにはこういう経験が必要だと思います。こういう、本当の優しさを知れ。自分を犠牲にしても相手を守る。怪我をさせて、ごめんなさいではすまない。しっかり緊張感をもって取り組んでほしい。相手の不安な気持ちが安心感に変わるように意識してやってくれ」真剣な教師の語りに、生徒たちの表情も真剣です。

このような、インストラクションが重要です。  
子どもの意欲を高めることとルールを徹底させることの両方の意味があります。

ボディートークは、ことばは使わず、身体に触れて誘導します。

重要なのは「振り返り」です。どんな言われ方をしたら、どんな触り方をしたら、安心感があつたかを発表します。そして、学級に思いやりのあることばや態度を増やしていきます。アサーティブな表現を増やすのです。異学年交流で実践も可能です。先輩と後輩のかかわりの場になります。安心感、信頼感のある雰囲気づくりができる、エクササイズです。



☆ 今回のキーワード ☆

○人間関係向上プログラム

「相手意識」「ルール意識」「見る意識」「共有意識」「間の意識」

○3つのロールモデル「あいさつ上手」「うなずき上手」「お礼上手」

○生徒指導のキーワード：きびしさ・やさしさ・ユーモア

○人間関係がよければ「思考の質」「行動の質」「結果の質」が上がる

○教師の鉄則：知的な部分は「待つ」情的な部分は「すぐ、ほめる」

○「本業率」（子どもとかかわる時間）を上げるために、工夫する！（会議は短く）



♪学習会に参加された先生方の感想♪ （参加人数 32名）

- ・風土会に参加すると、あれもしたい、これもしたい、子どもたちは気付いてくれるし、感じてくれるんだという気持ちになれます。  
今年のキーワードは「チームワーク」でがんばろうかなと思います。
- ・いつも楽しみにしています。校務分掌で道徳・学活係を続けてしているので、エンカウンターもできるだけ取り入れています。まちがい探しも、今年の学年でもする予定です。来週は、「君はどこかでヒーロー」の予定です。
- ・若い先生が多く参加していて、がんばっている姿に刺激を受けました。学校に戻ってがんばりたいと思いました。いつも素敵な実践の報告をありがとうございます。研修とともに、元氣ももらえた気がします。
- ・「Xへの手紙」は、いろいろなアドバイスをもらえて、うれしい気持ちになりました。人間関係はやっぱり、教師と生徒の人間関係づくりが大切ですね。それにはやはり、自己開示することが一番大切だと、改めて思いました。「ボディーターク」も、はじめて会った人としたけれど、相手を信じるのが大切だということを実感しました。
- ・「ありえないゴミ箱」は、なるほど！！でした。私も今まで、よく教室のゴミ箱に捨ててある学習プリントや使いかけのえんぴつ等を出して、生徒にどう思うか、その場で言わせていましたが、重枝先生の実践のように、「考えて」交流させる題材にすると、より自分たちのこととして考えを深められるな！！と実感しました。ありがとうございました。
- ・「人間関係プログラム」のことを、もっと勉強して学級経営に生かしていきたいと思います。小学校でも、縦割りそうじをしています。低・中学年の子どもが学ぶという面もありますが、高学年のリーダー性を伸ばすために行うことが多いです。そして、教師が徹底して指導につかないと、なかなかうまくいきません。
- ・テンポ良く進めていただいて、とても楽しくあっという間に終わってしまいました。今日の話にあった、「教師と生徒のリレーションづくり」①自己開示 ②やってみせる ③3つのロールモデル は、自分の学級でも意識しています。ここで学んだことを、さらに自分のクラスで生かしていきたいと思います。見逃していることもたくさんあることに気付かせてもらいました。クラスでもう一度ルールを共有していきたいです。
- ・「ルールを守って活動できたからこそ楽しかったんだ！」という振り返りを、先月行った「まちがい探し」で評価しそこねました。ルール遵守の評価を生徒にしていなかったことに気付かされました。
- ・ルール確立、パターン化の大切さを改めて認識しました。授業中にルールを徹底しつつ全体に還元することの大切さを実感しています。「やってみせる」というロールモデルをシャワーのように生徒に示し、関係づくりをしていきたいと思いました。

## ♪「実践発表」（高嶋先生 平尾中学校）への感想や自分の実践について♪

- ・「協力する」という目標が達成できたうえに「今まで話したこともなかった者同士を仲良くさせた」というのは、とても素晴らしいことだと思います。私もいろいろと試してみようと思えました。ありがとうございました。
- ・同じ新任の先生が、このような立派な授業をされているなんて・・・と、今の自分はもっとがんばるべきだと改めて、気付かされました。
- ・学んだことをすぐに実践されている先生の姿を見て、かなり刺激を受けました。インプット→アウトプットを自分自身からやっていきたいと思います。先生の報告を聞いて「自分もやるぞ!!」という気持ちになりました。ありがとうございました。

(→若い先生方の「やる気」に刺激を受けます!「自分もやるぞ!!!」ですね)

- ・若い先生が自分でやってみた達成感を味わうっていうのがいいですね。先輩方から学び、子どものために実践し、子どもから返ってきたものでまた自分が成長していくのが、教師をやっててよかったと思うときかな。
- ・ガムシャラにやってください。がんばって!
- ・学んだことをすぐに実践していくことがすばらしいと思います。いろいろ考えてばかりより、若いうちは、どんどんチャレンジしていかれると力がついてくると思います。これからもぜひ、がんばって下さい。また、同学年の先生に、初任の先生がいるので、今日の指導案を見せてあげたいと思います。

(→先輩先生方からの「エール」 あったかいです)

- ・わたしも先月、「まちがい探し」をしました。生徒の反応も良く、活発で中身のある活動ができたのではないかと感じます。今年、元気のいい生徒ばかりで、月1回のエンカウンターを学年に提案することになっています。これからも共に学んでいきましょう。
- ・指導案のご提示ありがとうございました。先生が発表の中で、思いがけない生徒の感想が見られたと言っていました。私も昨年、何度か人間関係づくりの活動を実践しましたが、先生が言われるように、思いがけない子の思いがけない感想やひと言が楽しみになりました。そういう実践を続けて、教師も子どもも気持ちよくなっていきたいですね。
- ・すぐに取り組む（フットワークを軽く）というのがいいですね。見習います。現在、一年生の担任ですから、仲間と計画をたてて、我々教員も楽しんで人間関係をつくっていきたくと考えています。
- ・即、実践がすばらしい!!!と思いました。小学校でも5、6年の子どもたちに少しかみくだいてやってみたくと思いました。

(→実践の輪が広がっています・・・小学校での実践もぜひ、お聞きしたいです)

- ・僕も年度初めによくやるエクササイズです。場も盛り上がるし、他の生徒とコミュニケーションがとれるのに、生徒の喜ぶ笑顔が見られるのが自分の喜びです。学年が上がるとグループで言葉はつかわず、ジェスチャーだけでやるといった無言の空間を楽しむのもお勧めです。先生のクラスのワークシートを見て、自分も元気になれました。
- ・学んだことを生徒の実態を考えて、すぐに実践されたことは、すばらしいと思います。ルール説明に時間がかかったそうですが、黒板や紙に簡単に書いておくのもいいのではないかと思います。また、みんなでシェアリングも大切ですね。

(→良いアイデアをありがとうございます。取り入れてみます!)